

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引上げ＞
雌阿寒岳では 20 日 18 時頃から火山性地震が増加しており、現在も多い状態が継続しています。

【防災上の警戒事項等】

ポンマチネシリ火口から約 500m の範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○警戒が必要な範囲（図 1）

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

北海道：釧路市、足寄町

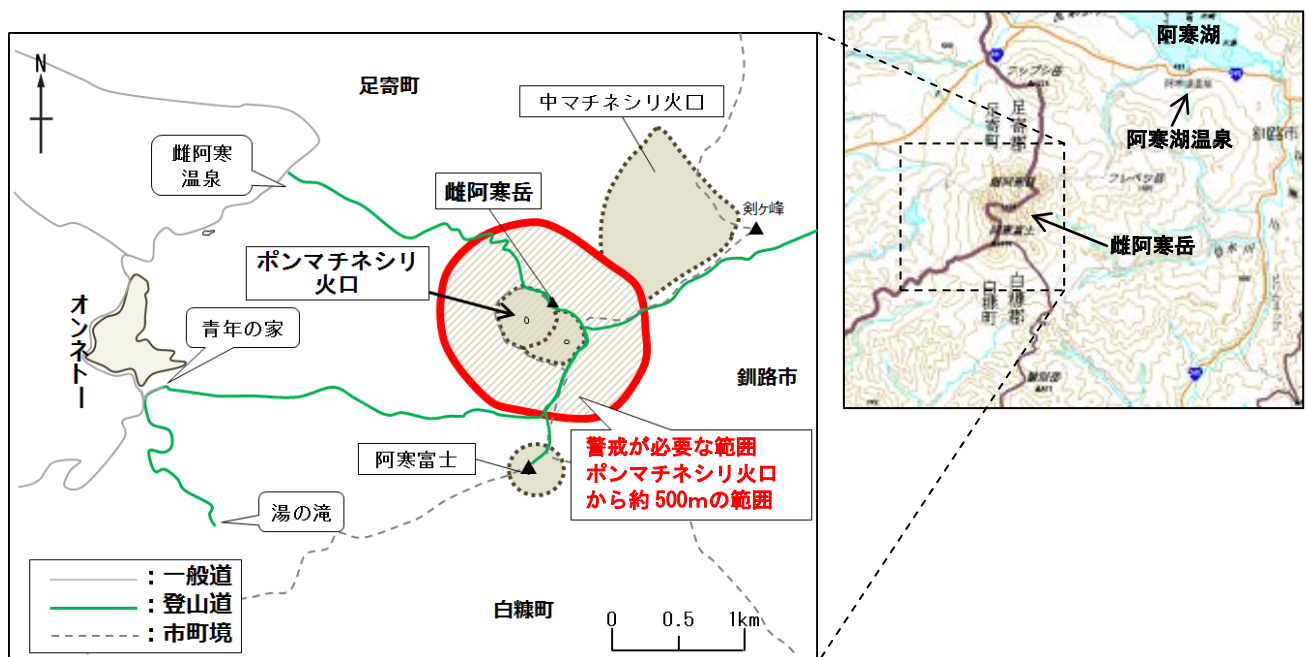


図 1 雌阿寒岳 レベル 2 の警戒が必要な範囲と周辺図

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』及び『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

○活動概況（図 2～図 9）

雌阿寒岳では20日18時頃からポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする火山性地震が増加し始め、23日0時頃からは更に増加して振幅の大きな地震も多くなっています。

監視カメラでは噴煙の状況に変化はみられません。

火山性微動は観測されておらず、地殻変動にも特段の変化はありません。

本日（23日）、現地調査を行いました。ポンマチネシリ火口は悪天により確認出来ませんでしたが、北西斜面06噴気孔列の地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

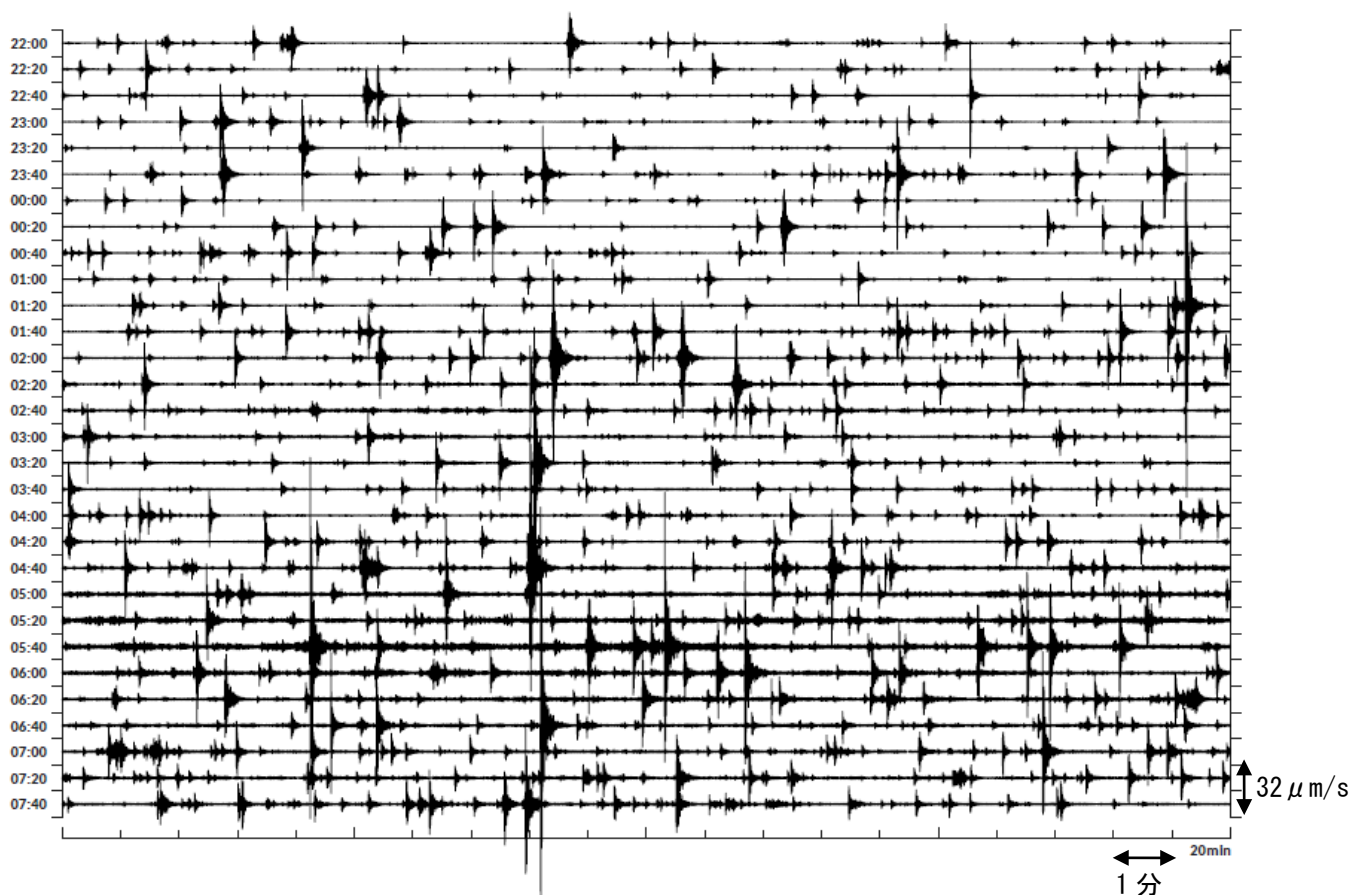


図 2 雌阿寒岳 ポンマチ南観測点（山頂付近の観測点）上下成分速度波形
11 月 22 日 22 時 00 分～23 日 08 時 00 分

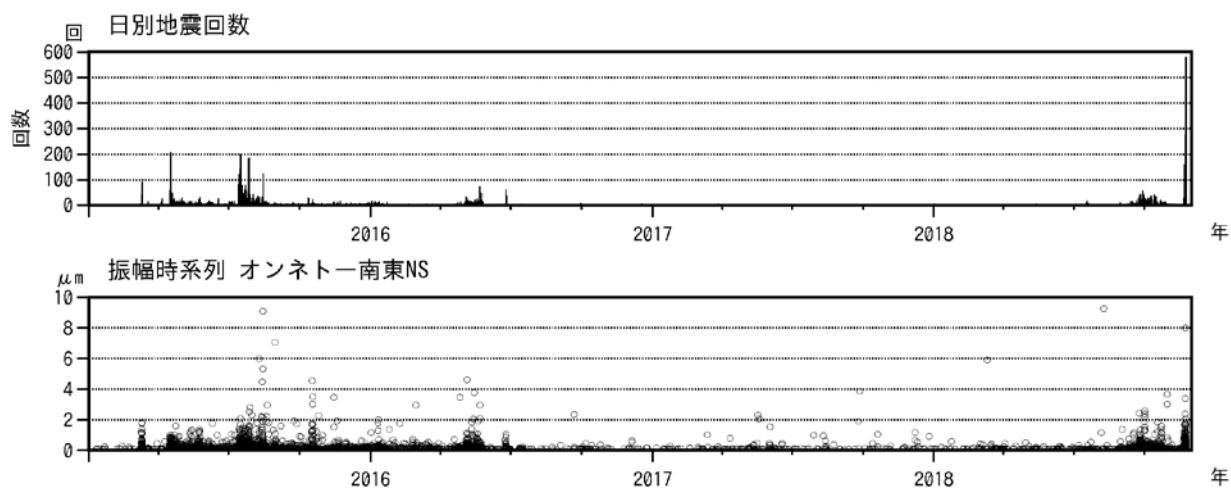


図3 雌阿寒岳 火山性地震の日別回数（上段）及びオンネトー南東（南北成分）の変位振幅時系列（下段）
（2015年1月1日～2018年11月23日16時）

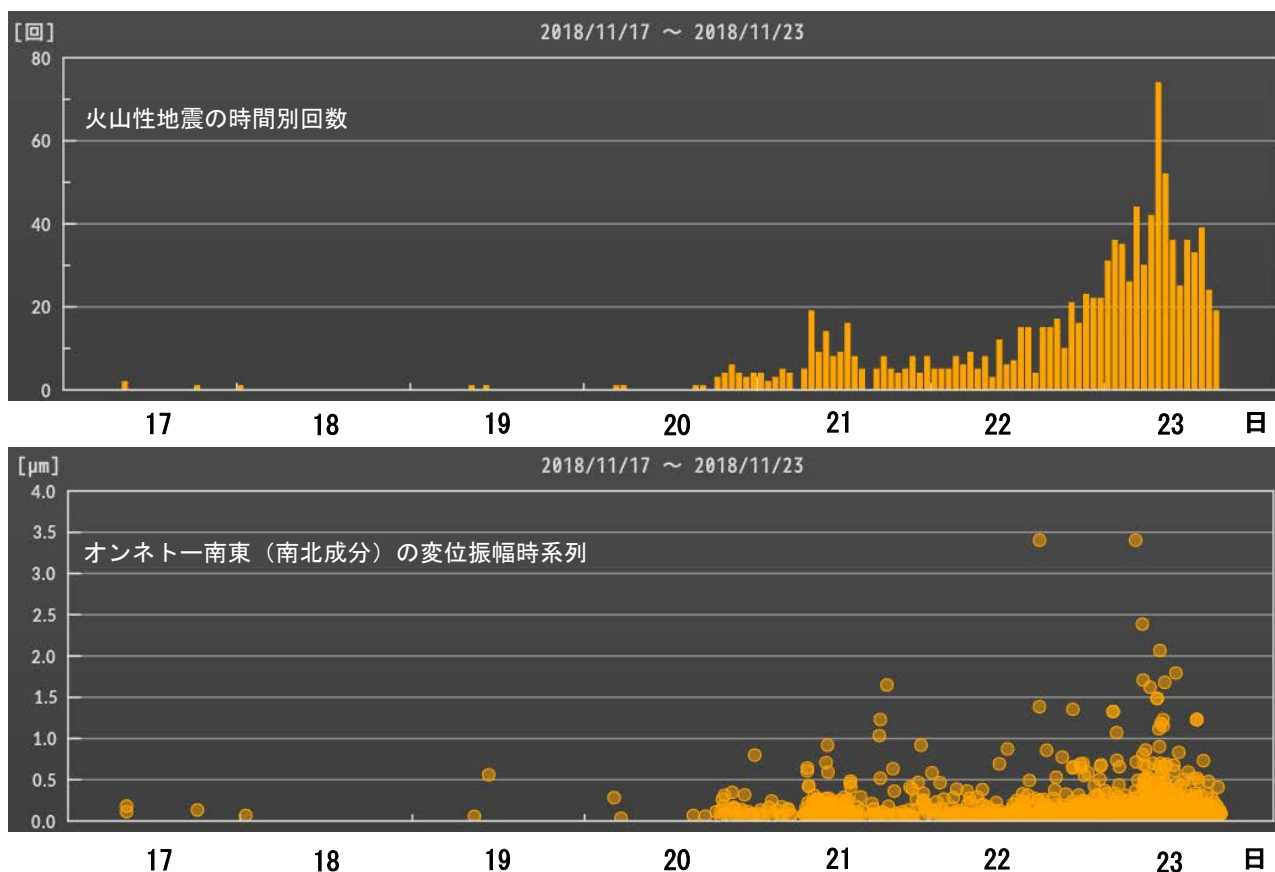


図4 雌阿寒岳 火山性地震の時間別回数（上段）及びオンネトー南東（南北成分）の変位振幅時系列（下段）
（11月17日00時～23日16時）

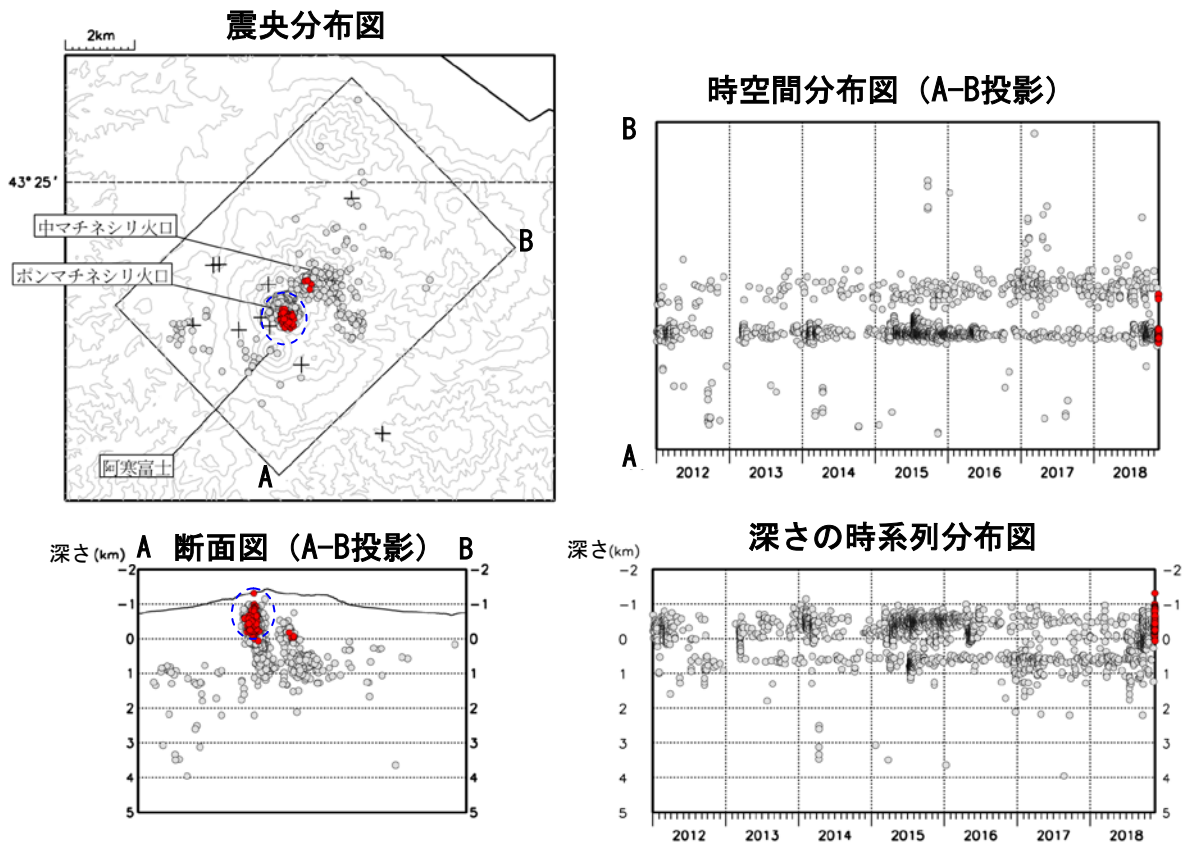


図 5 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2012年 1 月～2018年11月23日）

●印：2012年 1 月～2018年11月19日の震源 ●印：2018年11月20日～23日の震源

+印：地震観測点

- ・今回、地震が増加しているのは、ボンマチネシリ火口の海面下 1 kmより浅い所（青破線内）です。

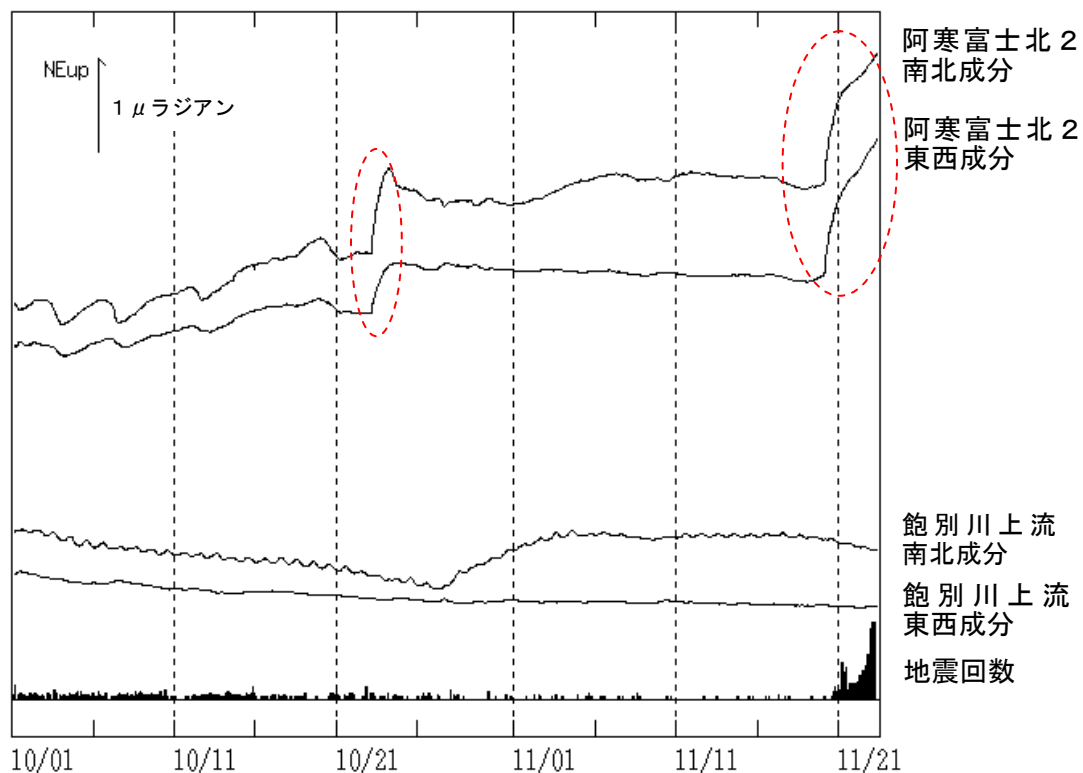


図 6 雌阿寒岳 傾斜計による地殻変動の状況（10月1日00時～11月23日12時）
・阿寒富士北 2 の赤破線部の変化は今回の地震増加と直接関係しない動きと考えられますが詳細は不明です。また、同様の変化は10月にもみられています。

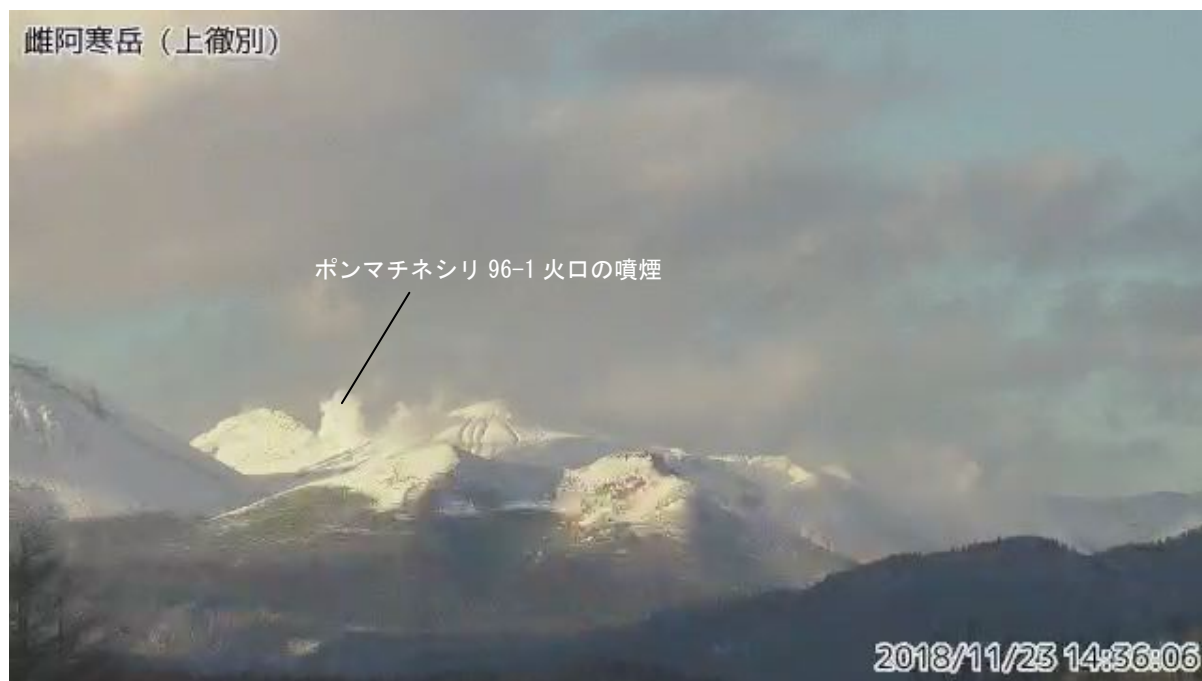


図 7 雌阿寒岳 南東側から見た山体の状況（11月23日14時36分、上徹別監視カメラによる）

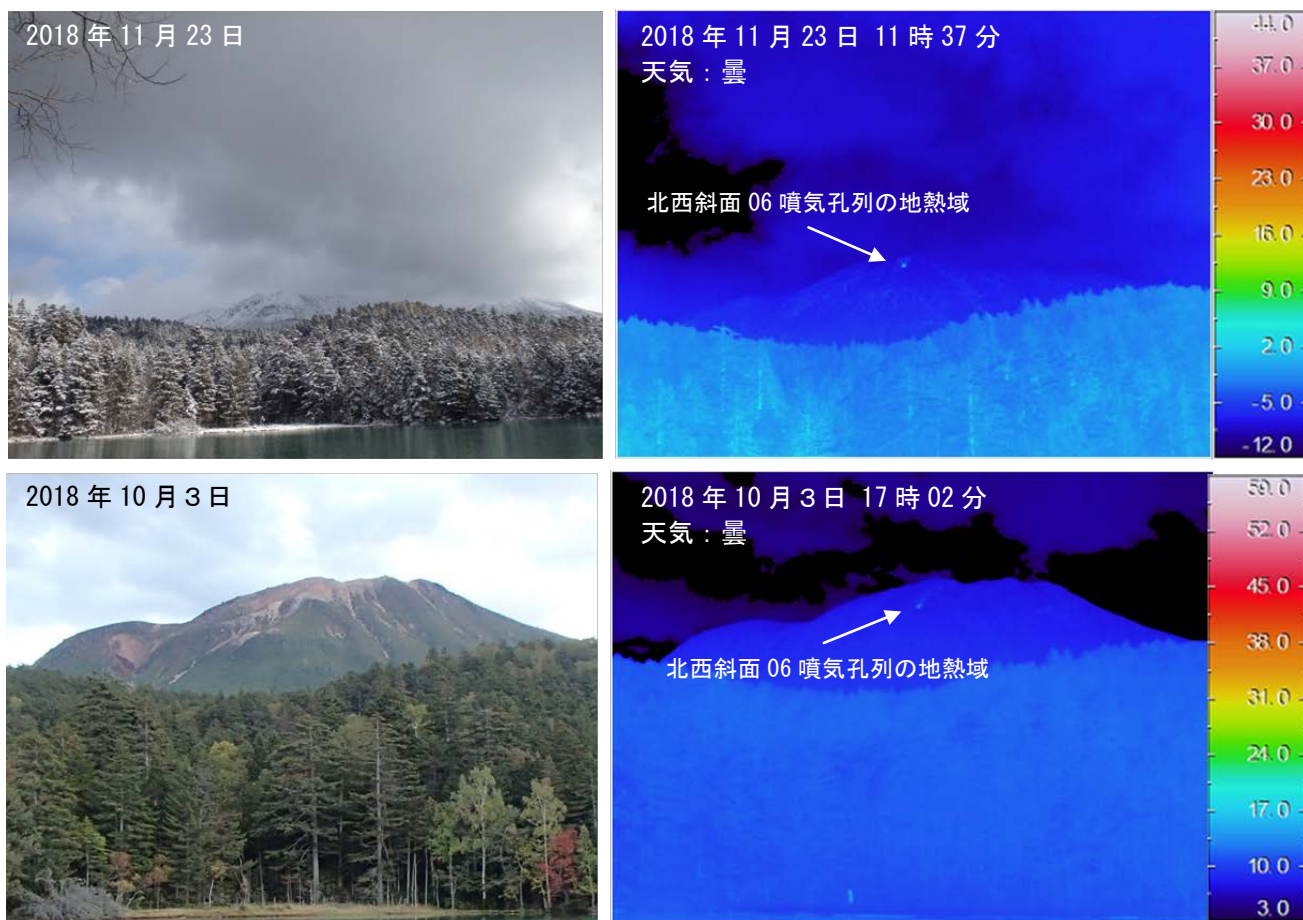


図 8 雌阿寒岳 西側から見た北西斜面06噴気孔列の状況（図 9 の①から撮影）
・本日現地調査を行いました。北西斜面06噴気孔列の地表面温度分布に特段の変化はありませんでしたが、ポンマチネシリ火口は悪天により確認できませんでした。

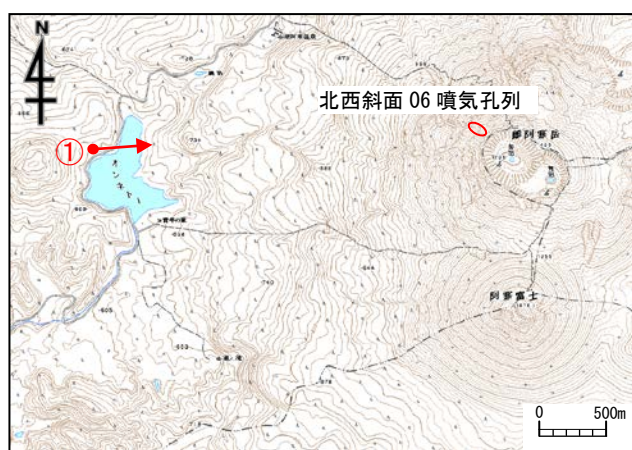


図 9 雌阿寒岳 北西斜面06噴気孔列の赤外熱映像観測点

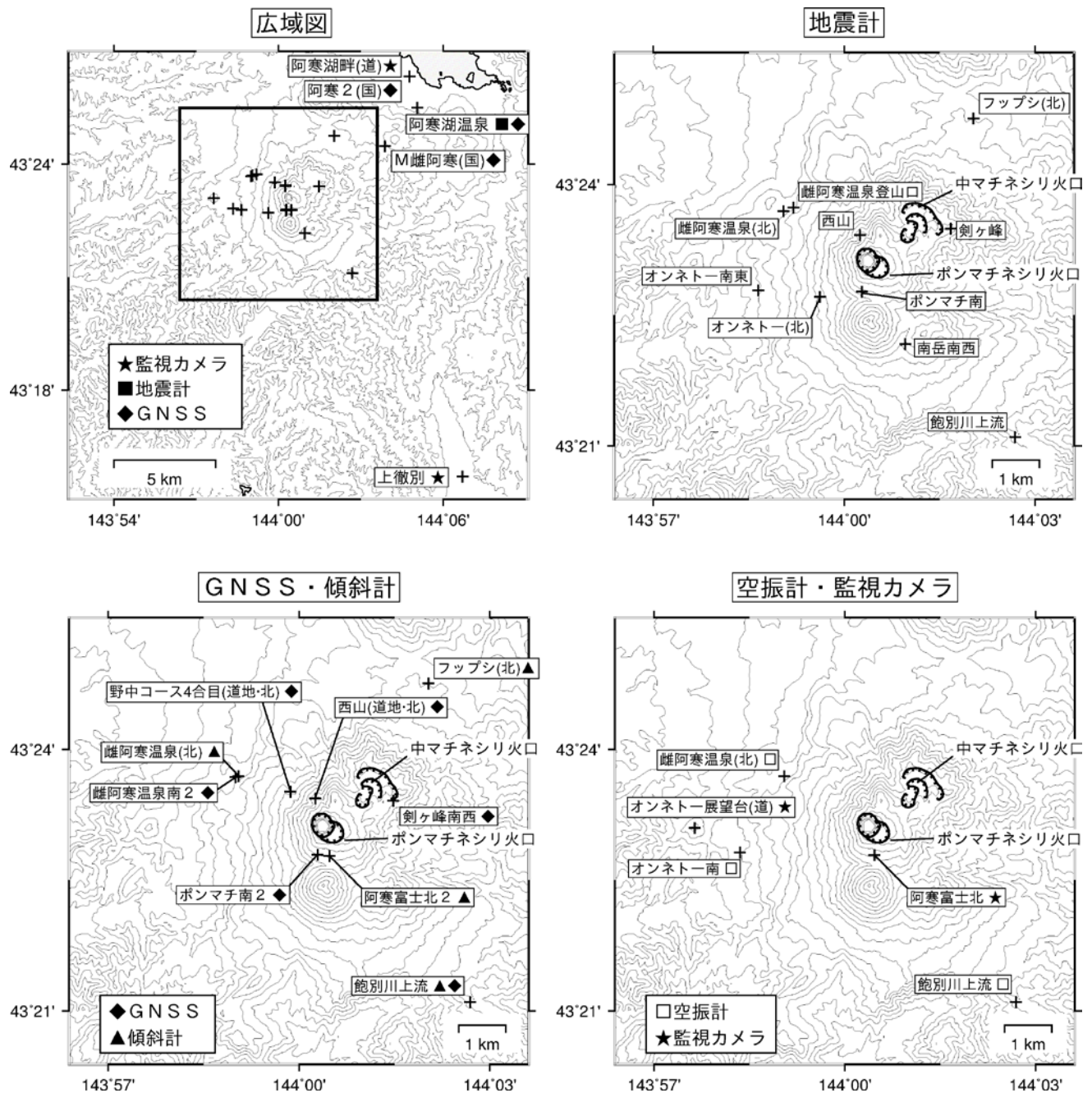


図10 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の□で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(北) : 北海道大学

(道) : 北海道

(道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所